

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	63	学校名	袋井高等学校	記載者	須藤 秀幸
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	「志」を育てるキャリア教育、生徒の要望に応える補講、全校体制での進路指導を目指す。	「進路及び将来の職業選択に関するキャリア教育が推進されている」と答える教職員が80%以上。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進学先の目標立ては重要だが、その先にある、職種、自分の特性をどう活かすか、どこに住み、どこで働くか、いかに自分らしく充実した人生を歩むかという最終目標に向けて、在学中に考えられる指導を期待する。 ・目標ができると生徒の取組は変わる。目標が見つかりと生徒は強い。 ・社会に出るとどの大学に行ったかよりも、どんなことができるかが重要。何をやりたいか、そのために何をするかという過程が大切。 ・高校生は視野が狭いので、視野を広げてあげることが高校の役目ではないか。
		「補講や集中学習期間は、進路目標達成のために役立っている」と答える生徒が70%以上。	A	A	
		「文理選択が主体的に行えた」と答える生徒が90%以上。	A	A	
		「自分の進路希望に合ったコース・科目選択ができた」と答える生徒が90%以上。			
イ	初期指導の充実、教科で一致した予習励行の工夫による家庭学習習慣の確立を目指す。	家庭学習時間の平均が 1年～3年6月 平日2時間以上 国30分以上 数45分以上 英30分以上 休日3時間以上 国30分以上 数60分以上 英60分以上 3年7月～ 平日4時間以上 休日6時間以上	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間は重要であるが、質を上げることが重要。時間が短くなったことによる評価はできているか。 ・学習量を保ちつつ、生徒の学習進度に合わせた家庭学習の指導と「効率の発見」の手助けになる指導を期待する。 ・もう少しやれると思って努力して前へ進むことが大事。もう一步高い目標を立てられるようにしてあげたい。高みを目指す精神の育成が必要。

ウ	相互授業参観等を契機に、授業改善(主体的・対話的で深い学び、ICT 活用)を図り、学力向上を目指す。	「外部模試の結果をその後の学習に生かすことができた」と答える生徒が 70%以上。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が面白くなってくると予習したくなる。 ・教える側の教え方も大切。興味を持たせれば、学習するようになる。 ・大学教育ではクリエイティブなことを期待するが、その前に、基礎がないとクリエイティブなことにはできない。基礎がないと将来はない。基礎の習得は苦しいことだが、指導者がやれと言ってもやらない。面白いと思うことを理解したいと思うと基礎をやるようになる。 ・基礎学力を高めるために、反復練習は重要である。
		「授業で学力が向上した」と答える生徒が 80%以上。「授業で扱う内容に興味・関心を深めた」と答える生徒が 70%以上。「授業に主体的に取り組めた」と答える生徒が 70%以上。	A	A	
		「アクティブ・ラーニング(型)、ICT活用など教材・教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と答える生徒が 75%以上。「積極的に発言できた」と答える生徒が 70%以上。	A	A	
		「授業をとおして、文章を的確に読み取り、場面に応じて自分の考えを話したり、書いたりする力がついた」と答える生徒が 70%以上になる。	A	A	
		「授業や課題、定期テスト等を通して、論理的に考える力が伸びた。」と答える生徒が 70%以上	A	A	
		「授業を通して、主語と動詞の整った自分の考えを伝える英文を書く力をつけることができた。」と答える生徒が 70%以上。	A	A	
		「授業を通して科学的な探究力をつけることができた」と答える生徒が 70%以上。	A	A	
		「授業、課題、定期テストなどを通して、現代の社会や歴史について考える力を身につけることができた」と答える生徒が 70%以上。	A	A	

様式第 5 号

		「体育の授業で知識と実践する態度を養うことができた」と答える生徒が 80%以上。	A	A	
		「授業を通して芸術のすばらしさを味わい、創造的な表現ができた。」と答える生徒が 70%以上。	A	A	
		授業を通して、「今の自分の実生活向上のためにつながる知識や技術が身に付いた」と答える生徒が 80%以上。	A	A	
		「情報に関する知識や技術が向上した」と答える生徒が 80%以上。	A	A	
エ	部活動、特別活動でのきめ細かな支援により、生徒の主体性、自立心の涵養を目指す。	<p>県大会出場部活 10 以上。</p> <p>「2時間以上の家庭学習時間を確保して部活動との両立をしている」と答える生徒が 70%以上。</p> <p>「学校行事や生徒会活動に主体的に参加している」と答える生徒が 90%以上。</p> <p>「学校行事や生徒会活動への取組を通して創造力・企画力・運営力、協働性等が向上した。」と答える生徒が 70%以上。</p>	A	A	<p>・部活動においては、目標達成に向けて一定の「厳しさ」は必要であるが、生徒の自主性や自己有用感を涵養するための指導を望む。合わせて進路目標達成に向けた家庭学習の重要性も引き続き指導を願う。法多山でのプロジェクションマッピングのような課外活動は素晴らしい取り組みであり、生徒の達成感や自己有用感を育てることができる。</p> <p>・部活（特に運動系）後に、2時間以上確保していれば十分ではないかと思われる。学校行事が制限がありながらも再開できたことはよかったと思う。</p>
オ	きれいな教室・廊下、美しい身なり、気持ちの良い挨拶・言葉遣い、大きな声での校歌斉唱を目指す。	<p>「頭髪・服装のルールを守っている」と答える生徒が 95%以上。</p> <p>「明るい挨拶や場面に応じて言葉遣いができている」と答える生徒が 80%以上。</p> <p>「一旦停止や並進を</p>	A	A	<p>・自転車通学の交通違反については、自分の行動が、自分の命・相手の命につながっていることを理解させたい。</p> <p>・開校以来、身だしなみや言葉遣いなどについては適切な指導が為され、節度が保たれている。軽微な交通法規でも、守ることは継続して持ち続けねばならない「順法</p>
			A	B	<p>の精神」です。逆に「誰も見てい</p>

		<p>しないなどのルールを守って登校している」と答える生徒が 90%以上。</p> <p>「校舎内外清掃が行き届いている」と答える生徒が 70%以上。</p> <p>「校内外において、袋井高校生として自覚ある言動ができた」と答える生徒が 90%以上。</p>			<p>ないところだから大丈夫」という安易な脱法精神が醸成されないよう指導を願う。</p> <p>・啓発看板は本来避けたいですが、意識付けするためには有効と思います。声掛けは先生方もお願いしたいが、そのみならず看板の検討もお願いします。</p>
カ	<p>時代の要請に応えるため、読書・小論文指導の充実、及び国際交流・ボランティア活動への参加者増を目指す。</p>	<p>図書館の本の貸出冊数が平均 3.8 冊以上。</p>	C	C	<p>・図書の貸し出し数減少については、ネットで情報を入手できる時代にあつて、読むに値する蔵書があることが大切。利用の量ではなく、どう利用するかが重要。</p> <p>・本以外に興味のあるものが増えて、本への興味を持たせることは難しいと思います。</p> <p>・表現力や論理性に優れた記述や発表などが得意な人には、読書量が多い方が多い。「図書室の本は情報が古い、役に立たない」という誤った考えを正しながら、図書室の利用と読書習慣の促進を図りたい。</p>
		<p>「学校図書館は学習活動の充実に役立っている」と答える教職員が 90%以上。「学習活動等の学校生活に役立っている」と答える生徒が 80%以上。</p>	B	B	
		<p>「福祉活動、ボランティア活動に将来参加したい」と答える生徒が 50%以上。</p>	A	A	
キ	<p>施設・設備・物品の充実、防災・危機管理意識の高揚を目指す。</p>	<p>「大規模地震等に対する防災意識が高まり、自分でできることを実践している」と答える生徒が 80%以上。</p>	A	A	<p>・生徒が安全かつ快適に過ごせるよう、校内の施設・設備の整備、点検の励行を期待する。</p>
		<p>「感染症対策、心身の健康維持、増進のために積極的に取り組んでいる」と答える生徒が 80%以上。</p>	A	A	
		<p>「施設・設備・物品の整備・美化に努めている」と答える教職員、保護者が 90%以上。</p>	B	B	
		<p>「学校の窓口として適正な対応をしている」と答える教職員、保護者、生徒が 95%以上。</p>	A	A	
		<p>「危機対応時における対応の仕方を理解している」と答える教職員が 90%以上。</p>	B	B	

様式第5号

ク	校務の効率化と適正化を図り、教職員の心身の健康を維持・増進する。	「仕事の効率化と業務の見直しが図られ、心身の負担が軽減された」と答える教職員が60%以上。「必要に応じた休暇が取れる職場環境である」と答える教職員が90%以上。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に必要なことと不必要なことの見極めを行うことが重要と思います。 ・教師間相互の労いや協力体制に加え、保護者の理解や生徒の感謝の念の醸成を促進する取り組みにより、教員の心身の健康の維持増進に良い影響があるものと考えます。
ケ	保護者の教育活動への参加促進と意欲的な広報活動の展開を目指す。	「PTA活動が充実している」と答える保護者が80%以上。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの充実についてアンケート結果が低いことについては、コロナ禍で、もう少し何かしてあげたかったという保護者の気持ちの表れと受け止めることもできる。 ・ラインワークスなどの情報ツールを活用して、もっと情報共有していけるといいと思いました。PTA活動ももっと開放的になるといいです。 ・コロナ禍のPTA活動について新しいアイデアに期待します。
「教育方針や学校生活の様子及び諸情報がよく伝わっている」と回答する保護者が80%以上。「各種奨学金、授業料減免制度について知っている」と回答する保護者が80%以上。	C	B			
「ホームページや発刊物・行事などを利用し学校の広報活動に力を入れている」と回答する保護者が70%以上。	A	A			
「一日体験入学に満足した」中学生が60%以上。中学生の一日体験入学参加が750人以上、公開授業が200人以上。	B	B			
コ	新学習指導要領に基づいた Society5.0 の時代に応じた教育の在り方を伝えていく。	「授業に主体的に取り組めた」と答える生徒が70%以上。	A	A	<p>国の通達やシステムの導入に振り回されることや、そこに固執することのないよう、今まで本校が培ってきた教育方法や校風も含め、多角的な教育によって「応用力の高い」人材の育成を目指されたい。多角的な教育には袋井市、静岡理工科大学、或いは地域社会との連携をさらに強く進めていくべき。</p>
「授業で扱う内容に興味・関心を深めた」と答える生徒が70%以上。	A	B			
「探究の時間は生徒の意識の啓発につながっている」と答える教職員が80%以上。	A	A			